

# 新島襄関連の文献目録 (33)

—著者・筆者別—

同志社社史資料センター

お知らせ

『同志社談叢』に掲載された「新島襄関連の文献ノート」(1)～(24)は、本学人文科学研究所により一括して再配列され、『新島襄関係文献目録』(非売品)として2006年12月に刊行された。

## 凡 例

1. 配列は著編者名をアルファベット順にした。同一の著編者による文献は、発行(発表)年月日順とした。
2. 著編者については、次のような例外がある。
  - (1)無署名の文献のうち、筆者を特定しうる場合は〔 〕内に表示した。
  - (2)著編者が不詳の場合は、その文献が掲載されている雑誌名及び新聞名を著編者欄に掲げた。
  - (3)ペンネームの場合、それが本名より周知されている場合は、ペンネームに続けて〔 〕に本名を付した。
  - (4)翻訳の場合、著者(筆者)、訳者の順番で記し、訳者には適宜(訳)を補った。
3. 書名(論文名)は次のように表示した。
  - (1)単行本、研究紀要、新聞、雑誌には『 』を付した。
  - (2)論文名、記事、抜刷、パンフレット類には「 』を付した。
  - (3)英文単行本の書名はイタリックで表示した。
  - (4)同一文献内に同じ著編者の論考がある場合、それぞれ独立したものとして表示した。
  - (5)タイトルは原則的に原文どおりに表示したが、タイトルに「 』が含まれる場合、適宜『 』に変更した。
  - (6)タイトルに含まれる漢数字は、算用数字で表記した。
4. 出版事項は、次のように表示した。
  - (1)発行所、発行年は原本どおり表記するが、和暦年号は西暦に変更した。再版(以降も)の場合、内容等に関して大幅な改訂がない限り、初版の出版事項を記した。
  - (2)新聞・雑誌の場合、誌(紙)名、巻・号、発行年月、新聞の場合には発行年月日を付した。
  - (3)インターネット上の文献の場合はアドレス(URL)と閲覧年月日を記した。
  - (4)漢数字は算用数字に変更した。

2014年12月31日現在

著者（筆者名）	題 名	出 版 事 項
A 浅野 敏彦	「新島襄の書簡に見える『幸福』—幕末武士階級の漢語」	『同志社国文学』第81号、同志社国文学会、2014.11
D 同志社大学同志社社史資料センター	「シリーズ新島八重の生涯⑤」	『同志社大学文学部・社会学部父母会会報』第114号、文学部・社会学部父母会事務局、2013.12
同志社大学同志社社史資料センター	「新島襄の足跡をたどる(9) 新島襄が再訪した密出国の地—北海道函館市」	『同経会報』No.76、同志社大学経済学部同経会、2014.4.1
同志社大学同志社社史資料センター	『新島八重関連書簡集』	同志社大学同志社社史資料センター、2014.3
同志社大学企画部広報室	『繋ぐ想い 新島八重と同志社』	同志社大学企画部広報室、2014.10
同志社大学理工学部70年史編集委員会	『conscience 人間のための科学技術を求めて 同志社大学理工学部の70年』	同志社大学理工学部・同志社大学理工学会・同志社大学理工学部同窓会、2014.3.20
F 福本 武久	「時をこえて、いまこそ語り継がれるべき、近代女性の先駆者」	『繋ぐ想い 新島八重と同志社』、同志社大学企画部広報室広報課、2014.10
布施 智子	「新出新島襄書簡の紹介」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
布施田 哲也	「新島襄の持病リウマチズム(Rheumatism)について」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
H 半澤 恵子	「同志社探訪第七回 京都看病婦学校と同志社病院」	同志社大学政法学会広報委員会『同志社大学政法学会会報』第38号、同志社大学政法学会会長高橋滋、2014.3.20
八田 英二	「生きるということ」	『チャペル・アワー奨励集』第284号、同志社大学キリスト教文化センター、2014.2.28
I 井上 勝也	「山本覚馬と妹八重」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28

入江 さやか	「明治期における外国地名標記：新島襄の草稿を資料として」	『立命館言語文化研究』第25巻第3号、立命館大学国際言語文化研究所、2014.2
石井 容子	「浮田和民とL.L. ジェインズ大尉の人間的交流—浮田文庫書簡などを通して—」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
石倉 和佳	「<新出資料>徳富蘇峰記念館所蔵新島襄書簡について(2) —教会合同問題をめぐって—」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
伊藤 哲也	「会津の烈女・八重の生涯(3)」	『会津史談』第88号、会津史談会、2014.4.27
伊藤 彌彦	「徳富蘇峰と新島襄—蘇峰再評価の動きの中で—」	『同志社時報』No.138、学校法人同志社、2014.10.1
伊藤 彌彦	「襄と八重」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
K		
加藤 拓	「豊かさとはなんだろうか？大河ドラマ『八重の桜』創作のキーワード」	『The Doshisha Times』第697号、同志社タイムス社、2014.3.15
北 康利	「会津のジャンヌダルク新島八重：絶望の先に見つけた自由な魂(第7回) 会津落城」	『歴史通』第28号、ワック、2014.1
北 康利	「会津のジャンヌダルク新島八重：絶望の先に見つけた自由な魂(第8回) 京都での新生活」	『歴史通』第29号、ワック、2014.3
北 康利	「会津のジャンヌダルク新島八重：絶望の先に見つけた自由な魂(第9回) 同志社英学校開校」	『歴史通』第30号、ワック、2014.5
北 康利	「会津のジャンヌダルク新島八重：絶望の先に見つけた自由な魂(第10回) 同志社女学校設立」	『歴史通』第31号、ワック、2014.7
北 康利	「会津のジャンヌダルク新島八重：絶望の先に見つけた自由な魂(第11回) 倜儻不羈の学生を愛し」	『歴史通』第33号、ワック、2014.11
北垣 宗治	「会津と八重：会津の八重」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
北垣 宗治	「コラム 新島の決意を示す手紙見つかる」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
北垣 宗治	「新発見の新島英文資料」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
北垣 宗治	「金森通倫についての試論」	『同志社時報』No.138、学校法人同志社、2014.10.1

アレクサンドラ・コビルスキ	「ウィリアム・E・ドッジ、ペイルートのシリアン・プロテスタント・カレッジと同志社」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
小 枝 弘 和	「新島襄にとっての函館」	『同志社時報』No.138、学校法人同志社、2014.10.1
近 藤 十 郎	「父の家を離れて～旅立ちへの祝福と祈り～」	『Chapel (ともしび第87号・つぼみ第28号)』第19号、2014.3.10
<b>M</b>		
森 孝 一	「二つの祖国—デフォレスト先生昇天40年を記念して—」	学院史料編集委員会『学院史料』神戸女学院史料室、2014.3.11
森 田 喜 基	「大久保真次郎の伝道とその性格『独立』と『合同』」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
本 井 康 博	「八重の桜・襄の梅—ハンサム・カップルのライフ・スタイル—」	『清風』第100号、同志社女学校父母の会、2014.2.19
本 井 康 博	「歴史講演 新島八重の生涯：大河ドラマのウラ・オモテ」	『日本看護歴史学会誌』第27号、日本看護歴史学会、2014.5
本 井 康 博	『新島襄を語る・別巻4 襄のライフは私のライフ』	思文閣出版、2014.5
本 井 康 博	『新島襄を語る (10) 志を継ぐ』	思文閣出版、2014.11
村 田 晃 嗣	「新島の志と同志社の今後」	『同志社時報』No.138、学校法人同志社、2014.10.1
<b>N</b>		
中 川 好 幸	「同じ志を持つ」	『同志社時報』No.137、学校法人同志社、2014.4.1
『新島研究』編集委員会	「コラム 同志社でAmherstを『アームスト』と表記する事になった経緯」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
新島八重研究会	『新島八重研究会講演集』	同志社女子大学総務部広報課、2014.6
西 田 毅	「吉田松陰と明治維新」	『民友』No.398、公益財団法人蘇峰会、2014.10.1
野 口 信 一	「会津若松城下 その歴史と文化」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
<b>O</b>		
大 越 哲 仁	「蘇峰と新島夫妻 (4) —新島襄海外渡航150年と『山本覚馬の刀』錯誤問題—」	『民友』No.398、公益財団法人蘇峰会、2014.10.1
大 越 哲 仁	「蘇峰と新島夫妻」(1)	公益財団法人蘇峰会『民友』No.395、2014.1.1

大越哲仁	「大学医学部設置は新島襄の悲願だったのか」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
大谷實	「進化する同志社」	『チャペル・アワー奨励集』第284号、同志社大学キリスト教文化センター、2014.2.28
大澤宣	「愛を身に着ける」	『チャペル・アワー奨励集』第285号、同志社大学キリスト教文化センター、2014.10.20
S		
佐伯順子	「明治女性史のなかの新島八重」	『チャペル・アワー奨励集』第284号、同志社大学キリスト教文化センター、2014.2.28
阪上敦子（監訳）	「アメリカン・ボード宣教師文書—同志社女学校女性宣教師を中心として—〈スタークウェザー書簡一訳および註—〉（9）」	『ASPHODEL』第49号、同志社女子大学英语英文学会、2014.7.20
坂本清音（監訳）	「アメリカン・ボード宣教師文書—同志社女学校女性宣教師を中心として—〈M.F.デントン書簡一訳および註—〉（1）」	『ASPHODEL』第49号、同志社女子大学英语英文学会、2014.7.20
佐藤優	「佐藤優の視点 新島襄の愛人主義」	『伝統と革新』第16号、たちばな出版 2014.7
関口徹	「新島襄の母とみと先祖の中田家—口述における『人望家』について—」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
千玄室	「新島八重刀自と茶道」	『同志社時報』No.137、学校法人同志社、2014.4.1
嶋田律之	「新島襄という清水安三の夢」	『同志社時報』No.138、学校法人同志社、2014.10.1
鈴木直人	「大学で学ぶ、同志社で学ぶ」	『チャペル・アワー奨励集』第285号、同志社大学キリスト教文化センター、2014.10.20
T		
田島繁	「エッセイ 新島襄の足跡を辿る 風間浦、函館、札幌」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
田島繁	「コラム 新島先生が1875年宇治川で描いたスケッチ『山と川と釣り人』の場所を特定」	同志社社史資料センター第一部門研究『新島研究』第105号、同志社社史資料センター、2014.2.28
高畑美代子	「イザベラ・バードが出会った日本人クリスチャン：弘前市東奥義塾の3人の学生、押川方義、新島襄・八重夫妻を中心に」	『東日本英学史研究：日本英学史学会東日本支部紀要』第13号、日本英学史学会東日本支部事務局、2014.3

竹内力雄	「山本覚馬覚え書（五）—『管見』を中心に—」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
竹内力雄	「『伝山本覚馬所用長巻』の真実」	『The Doshisha Times』第701号、同志社タイムス社、2014.7.15
田辺正和	「同志社探訪第六回 同志社に二度学んだ孤高の小説家・徳富蘆花」	同志社大学政法学会広報委員会『同志社大学政法学会会報』第37号、同志社大学政法学会会長高橋滋、2013.10.1
田附俊一	「日本の体育小史：新島襄と同志社の関わり」	『同志社スポーツ健康科学』第6号、同志社大学スポーツ健康学会、2014.6
露口卓也	「八重と兄・覚馬に見る会津」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
Y		
山下智子	「新島八重の祈り（30周年記念号）」	『新島学園短期大学紀要』第34号、新島学園短期大学、2014
吉田曠二	「山本覚馬＝八重・襄の出会い 同志社誕生物語：一冊の本との出会から（5）」	『The Doshisha Times』第694号、同志社タイムス社、2013.12.15
吉田曠二	「山本覚馬＝八重・襄の出会い 同志社誕生物語：一冊の本との出会から（6）」	『The Doshisha Times』第695号、同志社タイムス社、2014.1.15
吉田曠二	「山本覚馬＝八重・襄の出会い 同志社誕生物語：一冊の本との出会から（最終回）」	『The Doshisha Times』第696号、同志社タイムス社、2014.2.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（1）—新島襄を勇気づけた一冊の本」	『The Doshisha Times』第699号、同志社タイムス社、2014.5.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（2）—新島襄を勇気づけた一冊の本」	『The Doshisha Times』第700号、同志社タイムス社、2014.6.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（3）—海外脱出への第一幕：新島の海外脱出はいつ、どこから始まったか？」	『The Doshisha Times』第701号、同志社タイムス社、2014.7.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（4）—海外脱出への第一幕：新島の海外脱出はいつ、どこから始まったか？」	『The Doshisha Times』第702号、同志社タイムス社、2014.9.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（5）—航海中、暴風雨の洗礼を受けた新島 その時、京都の情勢は？」	『The Doshisha Times』第703号、同志社タイムス社、2014.10.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（6）—新島襄の函館滞在：55日間のドキュメント」	『The Doshisha Times』第704号、同志社タイムス社、2014.11.15
吉田曠二	「新島襄とロビンソン・クルーソー（7）—新島襄の函館滞在：55日間のドキュメント」	『The Doshisha Times』第705号、同志社タイムス社、2014.12.15

吉田幸弘	「『我友山本覚馬』—廣澤安任の遺した資料—」	『同志社談叢』第34号、同志社社史資料センター、2014.3.1
吉海直人他	『新島八重×同志社女子大学 コラム集』	同志社女子大学総務部広報課、2014.6
吉海直人	「八重の風間久彦宛書簡の紹介—風間健氏所蔵—」	『総合文化研究所紀要』第31巻、同志社女子大学総合文化研究所、2014.7.14
吉海直人	「新島八重の和歌について」	『同志社女子大学 学術研究年報』第65巻、同志社女子大学教育・研究推進センター、2014.12.24